

岡山県

せいきょうう連 会報

2012年
新年号

世界の協同組合は

共通の「定義・価値・原則」をもっています
(23ページ)

ICA(1895年創立:国際協同組合同盟)では、協同組合原則を満たすことが加盟の資格条件になっています。「原則」はロッヂデール公正開拓者組合創立時の規約の原則を原型にしています。

ICAでは、協同組合の理念を大切にしながら、時代の変化にあわせて何度も改定を重ね、1995年9月にマンチェスターで開かれた100周年記念大会で「協同組合のアイデンティティに関する声明」を決定しました。

CONTENTS

新年メッセージ

- | | |
|-------|-------------------------------|
| 1~2 | 国際協同組合年 |
| 3 | 会長理事 |
| 4 | 岡山県知事 |
| 5~10 | 各界の方々 |
| 11~12 | 知事、議員、行政担当部署と懇談し、情報交換を行いました。 |
| 13 | 会員生協の組合員、役員・職員が交流し、学びました。 |
| 14 | 第30回 岡山県民「平和のつどい」開催される |
| 15~16 | 岡山県消団連、NPO消費者ネットおかやまととともに |
| 17~18 | 会員生協トピックス |
| 19 | 県生協連の紹介 |
| 20~22 | 会員生協紹介 |
| 23 | 世界の協同組合がもっている共通の「定義・価値・原則」とは? |

協同組合がよりよい社会を築きます

と決めました!

国際協同組合年

国連は、2012年を



2012
国際協同組合年

国連は2009年に2012年を「国際協同組合年(IYC)」とすることを決め、世界の抱える貧困、金融、経済危機、食糧危機、気候変動などをはじめと果たすことを期待し宣言されたものです。



国連本会議にて報告を行うボーリン・グリーンICA会長

国連によるIYC開会式が2011年10月31日に行われ、円卓会議後の国連総会では、ボーリン・グリーンICA会長が報告を行いました。

アシャ・ロセ・ミヒロ国連事務総長代理は、「世界的な金融危機の中、協同組合は大きな役割をはたしています。IYCが、協同組合の理想的で、可能性ある発展につながることを期待します」と述べました。

日本では、実行委員会が全国でつくられ、岡山県でも2011年10月13日に発足しました。

「IYC」を機会に、協同組合の存在を広くお知らせして、「認知度」を高めていくことを大きなテーマにしています。実行委員会には、岡山県農業協同組合中央会、岡山県漁協組合連合会、岡山県森林組合連合会、岡山県生活協同組合連合会をはじめ、岡山県、大学、マスコミ関係者など団体、個人が参加し、代表には千葉喬三就実学園理事長が就任しました。

《2012国際協同組合年 岡山県実行委員会委員》

所属団体名・役職名
J A 岡山県青壮年部協議会 会長
倉敷医療生活協同組合 理事
岡山県森林組合連合会 代表理事会長
テレビせとうち株式会社 代表取締役社長
全国共済農業協同組合連合会岡山県本部 運営委員会会長
NHK岡山放送局 局長
農林中央金庫岡山支店 支店長
岡山大学 附属図書館 館長
岡山医療生活協同組合 専務理事
倉敷医療生活協同組合 副理事長
山陽新聞社 代表取締役社長
J A 岡山県女性組織協議会 会長
三井造船生活協同組合 理事長
生活協同組合おかやまコーポ 理事
学校法人 就実学園 理事長
おかやま酪農業協同組合 代表理事組合長
岡山商科大学大学院 教授
岡山県漁業協同組合連合会 専務理事
山陽放送株式会社 代表取締役社長
岡山県農業協同組合中央会 会長
生活協同組合おかやまコーポ 理事長
岡山放送株式会社 代表取締役社長
岡山県JA組合長協議会 会長
全国農業協同組合連合会岡山県本部 運営委員会会長
岡山県生活協同組合連合会 会長理事



千葉喬三実行委員会代表



岡山県実行委員会結成総会

《予定されている取り組み》

取り組み予定企画	内 容 [概要]	開催日等
◎IYC記念作品コンクール (「」はテーマ) ①作文 「つながり・助け合い・自然の恵み・協同」「絆」 ②論文 「協同組合の役割と未来」 ③実践報告 「共同活動の実践報告」	・応募資格…県内在住 ・応募企画…作文部門 3,000字以内 論文・実践報告部門 10,000字以内 ・応募規則…本人・日本語の作成、他に応募していない、一人一点、その他 ・入賞者表彰授与・副賞 協同組合フェスティバルの会場において 協同組合賞(県知事賞)ほか	募集期限 … 7月31日 (火) (当日消印有効)
◎テレビ番組・イベント告知	・座談会ほか	1月
◎新聞(特集)記事・広告掲載	・協同組合紹介、イベント告知等	4月(未定)
◎協同組合フェスティバル ①ステージ設置 ②物産フェア	・作文・論文等、入賞者表彰 ・ブースにより、協同組合(参加生協等)紹介 …物産フェアは、東日本被災地支援も ・ステージは、表彰、お楽しみイベント	9月29日 (土) コンベックス岡山

各國政府に協同組合の発展の促進を求めていました。
する現代社会の重要な課題の解決にむけて、協同組合が大きな役割を



大津波被災後6ヶ月を経て [石巻9/14撮] …津波の痕跡に、癒しがたく、悔しい被災者の心情が映ります。



北上川河口付近



門脇小学校校舎



石巻市立病院

東日本大震災には、全国の生協や協同組合とともにICA〔国際協同組合同盟〕からの支援もありました。

県内の会員生協は、被災地の協同組合と連携して、組合員・職員による募金・生活物資・医療・共済分野等の支援活動をすすめてきました。厳冬期をむかえている今は、「仮設住宅への灯油支援（灯油と収納専用ボックスを贈る運動や「福島の子ども保養プロジェクト）」=つながろうCO・OPアクションくらし応援募金」なども行っています。

震災後10ヶ月を経ますが、被災者の暮らしを回復し、希望へとつながる応援はまだまだつづきます。

ICAのポーリン・グリーン会長より寄せられたメッセージから

～大震災により、ご家族や友人をなくされた皆様、また被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

大震災後の混乱に対して、日本のすべての皆様が示された堂々とした態度と強い心に感銘を受けたのは私だけではありません。日本国民は、他国の支援の求めに常に率先して応えてこられました。いまは私たち協同組合の仲間が、被災された友人や協同組合の人々に寄り添うときです。

ICAの日本災害復興基金に対して、世界各地から、個人として、また組織の大小や貧富にかかわらず、協同組合の仲間から義捐金が寄せられたことは非常に心強いことです。このことは、日本生協連が半世紀以上にわたり、さまざまな不幸に苦しめられた地域の支援のために、いつも協同の精神の力を示してこられたことを反映するものです。(2011.6.17 第61回日本生協連通常総会、一部抜粋)

東日本大震災発災後、購買・医療・共済の生協は、地域も職域も大学も直ちに支援活動を始めました。



【おかやまコープ（出発式第1陣）】



【おかやまコープ（店舗前募金）】



【県労済生協（全労済県本部）】



【岡山医療生協】



【岡山医療生協（被災現地）】



【倉敷医療生協（出発式第1陣）】



支援しているAMDAと協力連携【おかやまコープ】



医師、看護師らを多賀城市に派遣【倉敷医療生協】



岩手県で移動販売の様子

新年の

2012 “国際協同組合年”への参加を生活者の目線で



岡山県生活協同組合連合会
会長理事
安 場 靖

ふだんのくらしと健康と、生活文化の向上に寄与されている会員生協並びに組合員のみなさまに心より敬意を申し上げます。

東日本大震災で愛するご家族や友人を失い、仕事を奪われながら、被災から立ち直ろうと必死に闘っている方々、東京電力福島第一原発の事故で「ふるさと」を離れざるを得ず、もとの暮らしを取り戻そうと懸命にがんばっている方々にとって、新しい年がひと筋も二筋も光の当たる年であって欲しいと心から願っています。また、発災当初から被災者に寄り添い、復興支援を続けている会員生協並びに組合員のみなさまに、改めて深く敬意と感謝の意を表しますとともに、息長く支援できるよう気持ちを新たにしています。

さて、新しい年があけました。国連が決めた2012国際協同組合年にあたる今年は、協同組合の存在意義と役割とともに、未来社会に必要とされる協同組合たらんことを広く知っていただくチャンスであり、スタート台に立つ時です。

少子高齢化と長引く不況のもとで、地方経済の疲弊はすすみ、雇用も消費支出も冷え込んでおり、県内の会員生協も購買、医療、共

済のいずれの分野も風当たりがつよまっています。

このような時に「社会保障と税の一体改革」で「消費増税」が語られ、“国益”たるものの中身が見えないまま「環太平洋経済連携協定（TPP）」交渉に「参加する」との政府の姿勢は、生協など協同組合の価値を高め、事業の発展につながるのか、また、今日の“閉塞状況”を脱することになるのか疑問が残ります。

「社会保障」の公的な充実と「応能負担の原則」に基づく「税制」を求め、農業分野での過去の施策を反省し、国民生活と乖離し聖域とされている高額予算の抑制には、もっと目をむけるべきだと思います。

今、中山間地域や離島における「買い物弱者」と称される人たちへの支援のあり方や都市部を含めた「高齢者にやさしいまちづくり」の取り組みに関心が高まっています。ネットワークの結び目として生協にできることは何か。消費者問題も環境も福祉も、出発点は生活者の目線です。

岡山県生協連合会は、あらためて会員生協はもとより、農業協同組合、漁業協同組合、森林組合のほか友誼団体、行政などとの連携を大切にして、協同組合が人の縊で結ばれ、互いの立場を認め合い、ともに支え合う中で、地域コミュニティが築かれ成長しつづけることを求めつづけます。

今年もよろしくお願ひいたします。



ごあいさつ

「暮らしやすさ日本一」の岡山を目指して



岡山県知事
石井正弘

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は、東日本大震災の発生で、改めて命の大切さや人としての生き方、自然の脅威やこれから社会の在り方など多くのことを考え、感じさせる一年となりました。新しい年を迎える、すべての県民が、安全で安心な地域で、夢を持って生き生きと満足して暮らし続けることができる岡山を、必ず実現していくかなければならないと決意を新たにしています。

東日本大震災に際しましては、多くの県民の皆様に、温かい真心のこもった物資やご寄付をお届けいただきました。また、各界各層の団体に参画いただき県民会議を立ち上げ、職員派遣や被災者受け入れなど、県の総力を挙げて復旧・復興支援に取り組んでまいりました。岡山県生活協同組合連合会の会員組合におかれましても、被災地への医療チームの派遣や救援物資の配達、義援金の募集などをいち早く開始され、心から敬意と感謝の意を表します。

このような中、岡山湯郷ベルの選手も活躍した「なでしこジャパン」のワールドカップ制覇は、日本を明るく元気にしてくれました。

また、県内に目を向ければ、日本エアロフォージ株式会社の玉島ハーバーアイランドへの立地や国際バルク戦略港湾への水島港の選定など、将来に夢の広がる出来事が続き、

B-1グランプリでの県勢の大活躍など元気の出る話題も数多くありました。

県政においては、安全・安心の確保をはじめ、人口減少・超高齢社会や厳しい経済・雇用情勢、環境・エネルギー問題など直面する課題に的確に対応するとともに、「新おかやま夢づくりプラン」の総仕上げを進めながら、これに続く「第3次おかやま夢づくりプラン」の策定に取り組みました。

「第3次おかやま夢づくりプラン」は、時代の潮流や東日本大震災の教訓、県民ニーズなどを反映しながら、選択と集中による政策の重点化や、岡山らしさあふれる先進的な政策である「岡山モデル」の展開を図り、「暮らしやすさ日本一」の岡山の実現を目指す新たな「県政推進の羅針盤」となるものです。

本年4月からスタートする中期5カ年計画には、四つの基本戦略、「安全・安心な地域づくり」「将来を担う人づくり」「発展につながる産業づくり」「豊かで潤いのある暮らしづくり」を掲げるとともに、中四国州構想推進プロジェクトや基本戦略を横断する三つのプロジェクトを盛り込み、地域において安全で安心な消費生活を支える消費生活センター数など、わかりやすい指標や意欲的な数値目標も設定しており、県民の皆様と目標を共有しながら、「協働の県政」を推進してまいります。

将来にわたり発展し続ける、安全・安心な「暮らしやすさ日本一」の岡山づくりに向け邁進してまいりますので、引き続き、皆様の力強いご支援、ご協力をお願いいたしますとともに、ご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。



新年の

岡山県議会議長



岡山県議会議長
河本 勉

新年あけましておめでとうございます。平成24年の年頭にあたり、謹んでごあいさつを申し上げます。

岡山県生活協同組合連合会の皆様には、新春を清々しくお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

皆様には、日頃から、環境、福祉などの各種分野で幅広く活躍され、県民生活の安定に多大なご尽力を賜っているところであります。心より敬意と感謝の意を表します。

県議会は県民を希望あふれる未来へ導く責任があります。私は、県議会議長に就任以来、その責任を肝に銘じながら、県民の福祉の向上と県勢の発展のため邁進しているところであります。

さて、昨年3月には東日本大震災が発生し、我が国がこれまで経験したことのない、未曾有の大災害となりました。また、本県では台風12号の直撃により大きな被害がもたらされました。今後、県地域防災計画の見直しや、公共施設の耐震化、河川改修などハード面の対策に加え、避難対策などソフト面の対策の充実を図るとともに、県民の防災意識の向上に取り組み、安全・安心に暮らせる災害に強い地域づくりを推進していかなければなりません。

一方、震災や円高の影響もあり、我が国の経済は依然として厳しい状況にあることから、経済・

雇用対策に重点的に取り組むとともに、夢と元気あふれる岡山づくりのためには県土の75%を占める中山間地域の発展が欠かせないとの思いから、中山間地域の振興が極めて重要な政策課題であると考えております。

今日のように、財政が厳しく、県政運営が難しい時代であればこそ、県議会に求められる役割も重みを増すものと考えます。そのため、議会の政策立案機能を向上させるとともに、県民の立場に立った議会の機能の充実・強化、広く県民に向けた情報公開の推進、さらに審議の活性化について積極的に取り組んでまいる所存です。

私の好きな言葉は「宿命に生まれ、運命に挑み、使命に燃える」であります。私は、この言葉を座右の銘として、公明正大な議会運営に努め、議長としての使命に全身全霊を尽くしてまいりますので、県民の皆様のより一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆様にとりまして幸多い一年となりますよう、また岡山県生活協同組合連合会のますますのご発展を心から祈念いたしまして、新年のごあいさつといたします。

ごあいさつ

会派代表のみなさま



自由民主党岡山県議団
議員団長

戸室 敦雄

新年あけましておめでとうございます。

県生協の皆様にはお元気で新春をお迎えのこととお慶び申しあげます。岡山県生活協同組合連合会は、「県民生活の安定と生活文化の向上」を目指して創立され、多くの県民や組合員のために、地域社会に根ざした幅広い活動を通して県民の福祉向上と県政発展に寄与されておられますことに敬意を表します。

昨年は、東日本大震災や各地での風水害など多事多難がありました。災害の復旧、復興に政治や行政が最優先で取り組まなければなりません。また、今こそオールジャパンで、文字通り「絆」を大切にして、安全・安心な国づくりに邁進しなければなりません。

日本生協連が、「平和とより良き生活こそ生活協同組合の理想」と宣言して創

立されたのは、1951年であり、60数年余の尊い歩みがあります。その貴重な実績のうえに立たれて、今年は国連が提唱する「国際協同組合年」を迎えられます。

いま、世界に目を向けてみると、地球温暖化をはじめ、自然災害や貧困・飢餓、騒乱、環境問題など平和社会を脅かす事件・事故などの問題が続発しています。このような現代社会の諸問題に対して、協同組合活動に大きな期待が寄せられています。

自由民主党岡山県議団は、消費者が主役となり、安全・安心な消費生活づくりを目指し続けますので、皆様方のご理解とご協力をお願い申しあげます。皆様のご清福を重ねてお祈り致します。



岡山県議会・民主県民クラブ
議員団長

三原 誠介

新年あけましておめでとうございます。

皆さまの活動により、県民の生活や医療福祉などが安心で豊かになっていくことに感謝します。

毎年開催される生協連合会の役員さんとの懇談会に、今回も12月に参加させて頂きました。

岡山県では、中山間地域だけでなく都市部周辺でも、生活に身近な公共交通路線の空白地域が広がり、様々な課題が浮かび上がっており、その解消に話題が集中しました。生協として、そうした課題に積極的に関わり、食料の配達業務はもちろんのこと、給食宅配にも尽力をされていること、更には、行政との連携で食料の配達エリアを拡大しようと模索するなど、活動の様子を聞かせていただきました。

県としても、今後5年間の行政指針である「第3次おかやま夢づくりプラン」に、公共交通路線の空白地域の解消を掲げており、その実態調査を早急に取り組むべきと会派として提案しているところです。各市町村でも、様々なコミュニティーバスなどの運行を試行されており、こうした動きと共に、県としても積極的に関わっていくことが重要であります。

高齢化・少子化の社会は加速しており、行政と皆様と住民が更なる連携を強めて、自分たちで自立できる仕組み作りを求めていかねばなりません。

今年は、「国際協同組合年」であり、関係者の連携により安心で豊かな生活を、共に創造して参りましょう。

新年の

岡山県議会会派代表のみなさま



公明党岡山県議団
議員団長

景山 貢明

新年、明けましておめでとうございます。

今、はっきりしていることは、民主党政権下でわが国の政治は迷走しきっているということだ。東日本大震災の3・11から約10ヶ月、復旧・復興への足取りは極めて遅い。あまりにも遅い。「がれき処理」も放射性物質の「除染作業」も遅れている。復興のための財源をどう調達していくか。復興特区、復興庁をどう稼働させていくか。そのほか、円高対策や、環太平洋連携協定（TPP）問題、欧州の経済危機が、わが国をふくめ世界に様々な影響をもたらしている。とりわけ、国内的には、少子高齢化にともなう諸課題。たとえば、年金の支給開始年齢の引き上げや消費税率の引き上げなど、われわれ庶民の負担増への不安も高まっている。まさ

に、日本の政治は、一刻の猶予もならない状況だ。野田政権で、はたして、山積する課題を克服し国民のための政治を断行できるのだろうか。地方政治もしっかりとせねばならない。各自治体の経営の格差が出たり、都市間競争も激化してくるだろう。ただし、中山間地域対策や、本当に苦しんでいる社会的弱者へのバックアップに行政は手をさしのべなくてはなるまい。ともあれ、今年こそ、真剣に政治に目を光らせ、しっかりと選挙民の判断が、賢明な判断がまたれる年だ。私も“大衆とともに”との立党の原点にたちかえって頑張りたい。ご指導のほどお願い申し上げます。



日本共産党県議団
議員団長

森脇 久紀

新年あけましておめでとうございます

東日本大震災と原発事故からもうすぐ10ヶ月。生協連の皆様方がとりくまれた温かい連帯の活動に心から敬意を表します。いまなお、つらい暮らしを余儀なくされている方々が多数残されたままの年明けとなり胸が痛みます。

3・11は、日本社会のあり方について深く考えさせられることとなりました。はっきりしたのは、利潤第一で国民を犠牲にする政治ではなく、地域の福祉・絆の構築、人間らしい生活・労働の保障、国民を大切にする政治が必要ということではなかったでしょうか。

ところが国政は、復興のあり方やその財源確保策、TPPや社会保障と税の「一体改革」など地域経済と国民生活を犠牲にする方向に突き進もうとし

ています。これでは「あの政権交代は何だったのか」と疑問の声が出るのは当然です。日本共産党は、「住民が主人公」「命とくらしを守る」立場を何よりも大切にしながら、今後も全力を尽くす決意です。

今年は国際協同組合年です。国連総会宣言（2009年12月）を読み返し、協同組合が果たしている大きな役割を再認識するとともに、これにふさわしい位置づけを行政がきちんとおこなう必要性を感じました。「協同組合がよりよい社会を築きます」のスローガンのもとですめられる国際協同組合年のとりくみを成功させるとともに、生協運動がますます大きく発展されるよう、私たちも応援したいと思います。ともにがんばりましょう。

ごあいさつ

日本生活協同組合連合会代表



日本生活協同組合連合会

会長

浅田 克己

新年おめでとうございます。

岡山県生活協同組合連合会と会員生協組合員、役職員の皆様が、県民のくらしの改善・向上のために多大な努力と実績を積み重ねてこられましたことに敬意を表する次第でございます。

昨年の東日本大震災、それに伴う津波の影響による東京電力福島第1原子力発電所の事故により未曾有の大災害が発生しました。犠牲になられた方々に哀悼の意をささげますとともに、被災されたすべての方々に心からお見舞いを申し上げます。発災当初から今もなお続けられております皆様の復興支援に対し、改めて深く敬意を表したいと存じます。これからも復興に向け長いみちのりとなります。引き続き支援の取り組みをご一緒にすすめてまいりたいと存じます。

東京電力福島第1原子力発電所の事故は、日本のエネルギー政策の見直しを迫るものでした。原子力発電所からの放射性物質の漏出、食品や水など放射能汚染の広範囲な広がりなど甚大な被害がもたらされました。一刻も早い事故の収束と安心して暮らせる生活の回復が求められています。組合員のくらしを守り、持続可能な社会をめざす生協にとって、今回の事故は避けて通ることができない問題です。日本生協連では会員生協の幅広い論議をもとに今後の日本のエネルギー政策の方を検討し、まとめていきたいと思います。

本年は国連が定めた「国際協同組合年（I Y C）」の年であります。すでに国連では昨年10月の総会で正式に「国際協同組合年」宣言がなされ、ICA（国際協同組合同盟）でも11月の総会で「国際協同組合年」開始の宣言を行いました。国内では農協や漁協のほか幅広い協同組合や団体と全国実行委員会を発足させており、ICAの掲げる「世界的に協同組合の事業モデルのビジビリティ（視認性・認知度）の向上を図る」をふまえ、都道府県単位の実行委員会や協同組合間連絡協議会で様々な取り組みが進められています。今後も活発な活動を繰り広げる予定ですので、皆様の積極的なご協力のほどお願い申し上げます。

昨年の日本生協連通常総会で確認された「日本の生協の2020年ビジョン」の実現に向けて「移動販売車」、「夕食宅配」などの各地で様々なチャレンジが積み上げられています。地域の問題に向き合い、その解決に取り組むことで生協の活動がさらなる地域への貢献となることをめざしたいと思います。

「国際協同組合年」をとおして様々な団体と協力し、協同組合の存在を高めると共に、地域社会づくりへの積極的な参加やくらしの安全につながる様々な活動をさらに推し進める年としてまいりましょう。

新年の

協同組合・友誼団

新年あけましておめでとうございます。

岡山県生活協同組合連合会の会員・組合員の皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、本年は、国連が定めた2012国際協同組合年であります。岡山県実行委員会を中心に県下の協同組合組織が協力・連携し、協同組合の存在意義や役割

岡山県農業協同組合
中央会会長

堀川 進

について、広く県民に呼びかける活動に取り組むこととしております。

昨年10月には世界の人口が70億人を超え、今後世界的規模の食料需給の逼迫が予想されており、全世界の食の安全・安心が懸念されるところです。

また、政府が交渉参加に向け協議の開始を表明したT

PP（環太平洋連携協定）について、私どもJAグループは国民の食と暮らし、いのちを守ってきた、わが国の制度や基準がTPPによって変更を余儀なくされる、国民生活の根本に関わる重大問題であると考え、交渉参加阻止に向け、引き続き行動していくことにしております。

今、JAグループは、食料自給率の向上とともに農畜産物の安全・安心に取り組み、消費者との連携による農業の復権をめざしています。

さらに、協同の活動を支えるためのより強固なJAの組織・基盤の強化に向けて、組織基盤の拡張となる組合員の加入促進等への取り組みを実践しております。

本年も、皆様と連携して、岡山県の農業振興と環境保全など、地域の活性化や社会貢献活動に取り組んでゆく所存であります。

最後になりましたが、今年一年が皆様にとりまして最良の年となりますよう、また皆様のご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

新年あけましておめでとうございます。

岡山県生活協同組合連合会の会員組合及び組合員の皆様には、お健やかに新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

さて、我が国の景気は先行きの見えない中、東日本大震災の影響もあり依然として厳しい状況にあります。

また、TPP問題では食料の安定供給・確保についての明確な方針が示されないまま、我が国農林水産業や地域社会を崩壊に導くTPPへの参加が強引に推し進められています。我々水産関係者は、それらの問題や国境監視をはじめとする多面的機能、さらには世界的な水産資源の管理にも重大な影響を与える恐れがある事から、TPP参加に強く反対するとともに、地道な事

からではありますが「食の安心・安全」と「地産地消」により一層力を入れ、水産物の安定供給に取り組む所存でございます。

さらに、美しく豊かな海を取り戻し次世代へ繋げて行く為、自然環境や生態系の保全及び、資源管理型漁業のより一層の推進に努めて参りますので、昨年に引き続き皆様方のご理解、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、岡山県生活協同組合連合会の今後ますますのご発展と、皆様方のご健勝を心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

岡山県漁業協同組合連合会
代表理事長

奥野 雄二

ごあいさつ

体代表のみなさま



(社)岡山県労働者福祉協議会
会長

高 橋 徹

新年あけましておめでとうございます。

岡山県生協連の皆様には輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素より、私ども県労福協に対しますご理解とご協力に厚く感謝申し上げます。

さて、私たち勤労者・生活者を取り巻く情勢は、景気低迷による賃金抑制や雇用不安の拡大、医療・社会保障の見直しなどにより、一段と厳しさを増しています。

こうした中、2012年は国連の「国際協同組合年」にあたります。

国内のみならず国際的にも、協同組合の社会的意義が見直される状況にあり、協同組合が共助の組織でありつつ、共益を超える公益の担い手となることが求められています。

一方、3.11東日本大震災は、「助

け合い、支えあい」「人と人とのつながり」の重要性を再認識されることになりました。

そのことは、私ども県労福協や県生協連の運動理念と一致するものであります。

私ども県労福協は、今後とも更に県生協連と連携を強化し、人と人とのつながり・絆が大切にされる社会、すなわち「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」の実現に向けて運動を推進していく所存であります。

今後ともご理解とご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、県生協連の益々のご発展と、皆様方にとりまして最良の年になりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶と致します。



(社)岡山県婦人協議会
会長

広瀬 敏子

新年あけまして、おめでとうございます。

岡山県生協連の皆様には、輝かしい初春をお迎えのこととお慶び申しあげます。

さて、成熟社会に突入して、豊かになった筈の日本では、低迷する政治、経済状況の中で、私達が毎日の生活を営む地域の土台が、地縁、血縁社会の崩壊、いわゆる無縁社会という言葉に象徴されるように、大きく揺らいでおります。また、少子高齢化や、核家族化、コミュニティーの崩壊等、社会制度、社会構造のあり方が問われています。

私達が密接な関係にある地域社会には、色々なリスクがあり、このリスクへの対応を社会制度だけに頼らず、市民一人ひとりが仕事と私生活の合間に社会に関わる事を認識して、自ら対応

することで、地域が一体となって支え合う共生社会を目指すことが出来ると思います。

地域社会に目を向け、率先して働きかけ、関わる日常が、社会的責任を担う生き方であり、東日本大震災の後、度々問われる絆につながるのです。

新しい年を迎えて、私達、岡山県婦人協議会も、明るく豊かな未来に向かって、岡山県生協連の皆様と共に、自己の責任を自覚して生きる社会の構築を願って活動して参る所存でございます。今後ともより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

天に駆け昇る龍のように、勢いのある活力溢れる一年であることを念じて、年頭のごあいさつといたします。

知事、議員、行政担当部署と懇談

●石井 正弘岡山県知事と懇談【2月3日(木) 11時30分～12時05分 岡山県庁 知事室】

県生協連から会長、副会長理事と女性理事3名が出席。会員生協の取り組みでは、特に、地産地消の現状と沖縄での「もずく」づくりと懸ける思い(おかやまコープ)、家庭会などのボランティア活動(三井造船生協)、倉敷・岡山・津山の「健康フェスティバル」について(医療生協)の紹介がされ、その後、以下の項目について知事に要望し懇談を行いました。



中山間地対策は、県としても何ができるか考えたい…と知事
消費者被害を防ぐための消費者(団体)交流の場づくりなどに力を入れてほしい。

- ① 2012国際協同組合年(IYC)について、岡山県でも県生協連、県JAグループ、県漁連、県森連を中心に実行委員会を立ち上げる予定であり、県民に協同組合の存在意義や役割などをアピールする良い機会なので、知事(県行政)にもご参加いただいて、ご支援をお願いしたい。
- ② 地方消費者行政充実に向けて、例えば国の補正予算に係る「住民生活に光を注ぐ交付金」等の活用を図ってほしい。生活相談員の養成・育成のみならず、関心のある消費者を対象に、講座の開設や消費者被害を防ぐための消費者(団体)交流の場づくりなどに力を入れてほしい。
- ③ 「買い物弱者」と称される地域環境が「高齢化」とともに拡がっている中で、生協の役割も課題になっている。一つの事例として福井県民生協の移動販売車のモデル事業を紹介し、県行政として積極的な施策を要望。

知事からは、中山間地対策としても県としても検討している。予算措置を含め、何ができるか考えたい。他の「要望」についても、「趣旨は理解し、受け止めたい」と述べられました。

●くらし安全安心課との定期懇談会【2月3日(木) 14時～15時50分 日生ビル会議室】

県民生活部くらし安全安心課から房野課長ほかお二人、県生協連より、役員など11名が出席しました。会員生協の紹介後、「県への要望事項」に対する回答をいただき、相互の意見交換が行われました。



岡山県に要望書を提出【平成23年10月17日】

要望は、生協の育成、消費者行政、食の安全・食育、災害対策、環境対策、保健・医療・福祉・介護・少子化対策、買い物弱者問題、地産地消運動、2012国際協同組合年への参画等を中心に27項目となっています。



要望書を手渡す安場県生協連会長（右）
左は渡辺知美くらし安全安心課課長

●第27回中四国生協・行政合同会議【10月26日(水) 13時30分～17時、メルパルク広島】

厚労省中四国厚生局、日本生協連、広島県環境県民局、中四国9県の行政14名、生協45名、計59名の参加。

「東日本大震災の教訓と地域コミュニティの再生」をテーマとして行われた会議では、各県行政担当者から生協への期待や意見等が述べられ、つづいて、以下の報告がされた。

- 特別報告①「東日本大震災の教訓と生協の課題」(日本生協連)
 - ②「東日本大震災への対応と広島県の防災計画」(広島県)
活動報告「地域コミュニティの再生に向けて～見守り・生活サポート活動、被災地支援、地域ネットワークづくりについて」(鳥取県生協)
 - ②「移動店舗による利用困難者対応の試験的取り組み(コープやまぐち)
 - ③「東日本大震災被災地支援の取り組みと、地域福祉ネットワークづくり～被災地ボランティア派遣と県内ネットワーク、防災塾、地域福祉ビジョンの取り組み～」(生協ひろしま)



挨拶する日本生協連中四国地連 三橋 議長

最後に、次回開催県の徳島県より挨拶があり終了した。(開催時期は8月頃)

話し、情報交換を行いました。

●岡山県議会議員のみなさまと懇談会を開催【12月7日(水)】

1990年に始まり、23回目となった懇談会は、12月県議会代表質問二日目の午後4時より行われました。

所管委員会の「総務委員会」と「環境文化保健福祉委員会」委員、そして会派代表にご案内し、12名の議員さんにご出席いただきました。

県生協連からは、役員10名が参加しました。

県生協連の安場 靖会長理事より、これまでの懇談会の経緯などを交えての挨拶があり、つづいて、ご出席の議員さんから自己紹介を兼ねて生協への想いや期待などに触れてご挨拶をいただきました。

その後、会員生協の紹介と話題提供があり、意見交換が行われました。



挨拶をする安場会長理事 戸室敦雄 自民党県議団長



県議会議員12人(前列)のみなさまと県生協連の役員

懇談会 ご出席の議員



お名前	所属	お名前	所属	お名前	所属
戸室 敦雄	自・県議団長	三原 誠介	民・ク県議団長	景山 貢明	公・県議団長
蓮岡 靖之	自・総務委員	一井 晓子	民・ク総務委員	笹井 茂智	公・環文保福委
太田 正孝	自・総務委員	木口 京子	民・ク総務委員	森脇 久紀	共・県議団長
小林孝一郎	自・環文保福	三宅 和広	民・ク環文保福	氏平三穂子	共・環文保福委



報告をする左から三橋 おかやまコーポ理事長、武部 三井生協理事長、木村 岡山医療専務、道廣 倉敷医療常務

写真↓各会派の挨拶・紹介の様子



三原誠介議員



景山貢明議員



森脇久紀議員

《会員生協からは》

購買・医療分野を中心に、生協事業や地域における組合員のネットワーク活動(商品・宅配サービス、医療・福祉・介護サービス、健康づくり・まちづくりなど)について報告がありました。

《県生協連からは》

今回のテーマ「県民がより安心して暮らせる地域社会を求めて～生協と行政の役割～」に関連して以下の話題提供がありました。

- ①「防災」「食の安全」「消費者行政充実」など、過去の懇談会のテーマの意義と社会的背景。
- ②少子高齢社会のもとでの「地域生活インフラ」や「福祉事業」などに、生協の機能をどう活かすか。また、行政と連携した取り組みやそのあり方をどう考えるかなどについて。
- ③国際協同組合年では、消費者と生産者の連携力を発揮し、協同組合の価値を広く知らせる。

《意見交換では》

- 買い物難民への対応などが話題になっているが、中山間地ではどのようなことが課題になっているか、どこの地域かを含めて具体的に知りたい。
- 赤磐、総社、高梁、瀬戸内市の状況やITによる注文制度の可能性などに触れて紹介がされた。
- ガソリンスタンドの衰退が激しいが、制度上の安全・安心を求めるあまり、経営が成り立たなくなっている状況がある。安全・安心の追求と経営とのバランスをどう考えるか。
- 巡回バスの試み(岡山市)、移動販売車など買い物難民への対応としても大切だ。応援したい。
- 出かけて買う楽しみは大切(介護予防)、調理は困難を伴う(男性)、地域ニーズを把握した対応が必要。
- 懇談会の内容を実らせることが大切だ。これからは、殻を破って進めることが大切ではないか。
- 消費者行政に係る事業を消費者ネットのような民間が取り組む意義は何か、また、そこでの課題は。

会員生協の組合員、役員、職員が交流し、学びました。

●県生協連・会員生協役員研修交流会を開催【1月7日(金) オルガホール 参加者は講演会に68名】

県生協連の安場会長理事の挨拶について、岡山県県民生活部くらし安全安心課課長の房野文彦さんよりご挨拶をいただきました。

最初の講演は、生協(協同組合)のこれから～「転換期の協同組合の役割」と題して日本生協連副会長・コープこうべ組合長理事の浅田 克己さん。

講演Ⅱとして、「法然上人、その教えに学ぶもの」と題して、就実大学元学長・名誉教授の柴田 一 さんの講話をいただきました。



挨拶される房野課長



講演中の浅田 克己さん



柴田 一 さん



参加者からは、『厳しい年明けだが、あらためて協同組合(生協)の社会的使命に触れるお話を聞き、1年がんばろうという気持ちが湧いてきた』。

『法然上人の生き方、教えの中で、『愛情が逆境を克服する』“和の中で友ができる、お互いの情報が交換できる”“和は家庭づくり、地域づくりの重要な役割をもっている”などと話され、生協の運動や理念に合い通じているものがある、深く感銘した』などの感想が寄せられました。

●組合員活動交流集会【2月4日(金) 10時～12時30分 オルガホール】

7会員生協から242名の参加のもと、出雲市民病院理事長の鈴木 正典さんをお迎えして、「想い出かたりは元気のもと」と題して“公演”をいただきました。



樂器を奏で、会場の一人ひとりに語りかけ、笑いと刺激溢れるお話をされる鈴木先生

昔懐かしい写真を見て笑い、歌を口ずさみながら若い頃を思い出す。

チェロや太鼓で奏でる講師の歌とお話しで認知症の予防やの連続でケアに活かそうとする手法、「回想法」なるものを参者みんなで学びながら、楽しいひと時を過ごしました。

講演のあとは、会員生協の中から以下の報告がありました。

- ①県労済生協 「社会貢献活動(ボランティア活動)」
- ②おかやまコープ 「おかやまコープの福祉活動」
- ③岡山医療生協 「岡山医療生協のサロン活動」
- ④三井造船生協 「三井造船生協の介護事業について」
- ⑤倉敷医療生協 「ブラジル人学校へのチョット手助け」
- ⑥津山医療生協 「ふれあい香房のとりくみ」

《寄せられた感想113通の中から》

- ・「2回、3回と聴くたびに、回想しながら想い出を語ることの大切さがよく分かり、益々回想法の深みを考えさせられた」
- ・「自分の義父との接し方に工夫をしてみたい、昔話をよ〜く聞いてあげたい」「普段のサロン活動に活かしたい」
- ・倉敷医療生協(総社支部)の「ブラジル人学校子どもたちへの取り組み」は、地域に密着し、国を越えての思いやりを活動に替え、心温まる報告が良かった。気づいた人が声を出し、すぐ実行に移す大切さを学んだ。」

●医療生協非常勤理事研修会【10月13～14日 岡山国際ホテル 県生協連医療部会主催】



分らないことは聞いて・・・と久保田さん

一日目は「医療福祉生協および非常勤理事の役割」と題した、久保田滋さん（元倉敷医療生協専務理事）の講演。「分らないことは聞く、総代会決定の実践・目標達成に責任を持つことが大切」などと話をされ、東日本大震災・原発問題などの情勢にも触れられました。

二日目は「協同組合の歴史と協同組合原則について」と題した、吉永紀明さん（県生協連前会長理事）の講演。



講演中の吉永紀明さん

豊富な経験と深い知識に基づいたお話で、「本で勉強するより分りやすい。」「歴史や協同組合原則が良く分った。」などと好評でした。

それぞれの講演後のグループワークでは、どのグループも活発な交流がなされ、参加者は「他生協理事に大いに元気付けられた。」「教育の大切さを学んだ。」と全体を通して充実した研修会となりました。



第30回 岡山県民「平和のつどい」開催される

核兵器のない平和な世界をねがって！～語り継ごう あの日のヒロシマ・ナガサキを～ ゲスト：あさのあつこさん／坪井直さん／きたがわてつさん

7月2日(土)、おかやまコープ「オルガホール」において開催されました。

つどいには約300名が参加。松井一實広島市長と田上富久長崎市長をはじめ、岡山県内15市の内、「平和市長会」加盟の10市長(現在2市増えて12市長)より核兵器廃絶への想いと運動への励ましをメッセージを通して寄せてくださいました。



←司会の竹田さん(左)と真鍋君

お寄せいただいたメッセージ

☆開会あいさつ



岡山市原爆被爆者会の平末豊会長の開会あいさつと被爆者のご紹介について、作家のあさのあつこさんのピーストーク(対談)や広島県被団協理事長の坪井直さんの被爆者からのメッセージ、歌手・きたがわてつさんのコンサート、そして、戦争をテーマにしたラジオ番組制作などに取り組む山陽女子高生2人も参加してのリレートークが行われました。
←あいさつをする平末さん →被爆者ご紹介の様子→



☆ピーストーク～あさのあつこさんとともに



岡山県美作市在住の作家で、小説『バッテリー』で有名な、あさのあつこさんをお招きしました。

聞き手は、おかやまコープ有識者理事の田中敦子さん。

対談で、あさのあつこさんは、「地震も津波も、止めるということは人の力では不可能、できることは被害を最小限に止めること、被害にあった人々に最大限の支援をすること」「戦争の場合は明らかに人、人が起こすことは人が止めなければいけない、止めることができるも」「けなげに、一生懸命に生きている人を不幸にする戦争や兵器は絶対になくすべき」「平和は、人の生きる基盤。戦争をして人の命を奪い、奪われた過去を忘れないこと、思い続けることが大事」と呼びかけました。

物書きとして、戦争の時代を生きた人のことをきっちりと書きたい・・と あさのあつこさん

☆被爆者からのメッセージ・坪井直さん(広島県被団協理事長)



「とてもつらい体験を、明るく、わかりやすく話しされていたのが印象的でした。「ユーモア満点の話し方がステキでした。笑いの中でも悲しさが伝わってきました。」「母のひとこと“大声”で、生き返ったぞ・・・その言葉にじへんとした。」

「60年以上も病気と闘い続けている坪井さんが話してくれた言葉の一つひとつが心に残った。(10歳代)」「ご自身の体験を、ユーモアをもって軽快にお話しされていて、つい聴き入っていましたが、今だからこそお話しできるだらうと思い、それまでの大変な想いに、胸が熱くなり、当時のことがよく伝わってきました。」
←パワフルに・・坪井さん

☆コンサート・きたがわてつさん(シンガーソングライター)

曲目 ①そんな町を：②日本国憲法前文：③ヒロシマのある国で：④グローバルゼロ

「平和を願う思いを込めたストレートな曲名・・・歌詞、わかりやすく、楽しいコンサートでした。」「伸びやかな歌声から熱いメッセージが強く伝わり、良かったです。」「久しぶりに9条の歌が聞けてよかったです。」「歌詞もメロディーもとてもインパクトがあって印象に残り、最初の一曲目で鳥肌が立ちました。とても癒されました。」



きたがわてつさん

☆リレートーク【坪井直さん・きたがわてつさん・山陽女子高校放送部のお二人】

「若い高校生、平和への試み、頼もしい。これからもがんばって欲しい。」「年齢も立場も違う人が「平和」に向き合っていることが伝わってきてとてもよかった。私も自分の立場でどんな活動ができるかあらためて考えたい。」

☆フィナーレ・合唱

岡山合唱団・岡山うたごえ協議会のみなさんが合唱、きたがわてつさん
が参加者にエールを贈って、つどいは終了しました。



岡山県消団連、NPO消費

●第25回岡山県消費者大会【10月21日(金) 10:00~12:30 オルガホール】

17団体173名の参加のもとに開催されました。
会場ロビーには、倉敷医療生協による健康チェックコーナーが設けられました。

大会は、代表幹事でJA県女性組織協議会会長の瀬良静香さんの開会挨拶について、祝電・メッセージが披露され、NPO法人気候ネットワーク代表の浅岡 美恵さん(弁護士)が、「再生可能エネルギーの展望と電力問題」と題して講演を行いました。



開会挨拶の瀬良代表幹事



浅岡 美恵さんの講演風景

《寄せられた感想より》

- ・たくさんの資料で具体的にわかる説明をいただき、今一番お聴きしたいことで参加して本当によかったです。
- ・他国に比べ、日本が遅れていることがわかった。もっと再生可能エネルギーを増やすことが大切。将来子どもたちが困らないように、私たちが今、できることをしていきたい。
- ・負担は耐えねばならぬとしたら、私たちには知る権利があり、学ぶ義務もある…ここに残りました。
- ・発電・送電の利権問題、発電量とCO₂排出量のバランスなど、長期的に時代に合った変化ができるシステムを作る必要があると思った。
- ・もっと時間を長くして、最後の方もゆっくり聴きたかった。等々の感想が寄せられました。



大会宣言案を読み上げる脇本 延子さん(岡山医療生協)

閉会挨拶をする近藤代表幹事(青法協)

県消団連の5幹事団体より、
活動報告 ➡

- ①JA県女性組織協議会 [JAグループ岡山が取り組んだ被災地への支援活動について]
～糸を結ぶ協同の心～
- ②新日本婦人の会岡山県本部 [助成の技と知恵が結ぶ新婦人の助け合いネットワーク]
- ③岡山医療生活協同組合 [東日本大震災、支援活動の当時と今]
- ④倉敷医療生活協同組合 [東日本大震災の支援活動とエネルギー問題を考える]
- ⑤生協おかやまコープ [被災地を応援しつづけます]

●蛍光管の適正処理をめざすフォーラム2011inおかやま【11月12日(土) 10時~12時30分 オルガ 5階】

「われる」「かさばる」「水銀が含まれる」などと、消費者・市民にとっても、処理にあたる自治体にとっても、やっかいな排出物とされる「蛍光管」について、リサイクルの仕方や適正処理について学ぶことを目的に開かれました。

京都消団連(主催)の呼びかけに応えた企画で、約30名の参加でした。

講演 「我が国の水銀規制の現状と課題」 貴田 晶子さん(愛媛大学客員教授)

事例報告 ①蛍光管の適正処理のために(NPO法人コンシューマーズ京都)

②蛍光管リサイクルの現状と課題(野村興産)

③岡山市の蛍光管リサイクルの取り組み(岡山県消団連)



講演中の貴田 教授



説明を聞く参加者

●蛍光管リサイクル工場見学【11月30日(水)】

11月12日に行われたフォーラムで、毒性の強い水銀の排出を縮減するため、水銀含有製品の生産・輸出入・販売・使用の禁止または制限(代替製品への転換)が求められていることを知りました。これを受け、回収蛍光管をリサイクル処理し、水銀を抽出できる工場を見学しました。日帰り見学で18名が参加しました。

・見学先：大阪 野村興産株式会社 淀川工場

者ネットおかやまとともに

●消費者月間記念講演会【6月4日(土) 14時30分 ～きらめきプラザ】



秋風亭てい朝さん ↓



消費者団体・生協・司法関係者など11団体57名の参加で開催されました。

学習講演会は、先ず、秋風亭てい朝さんによる創作落語「せんべい布団」から始まりました。

後半は、消費者庁の鈴木課長補佐（弁護士）から「集団的消費者被害救済制度の法制化に向けて～集合訴訟制度は、消費者に何をもたらすのか～」と題しての講演。制度の検討経過、集合訴訟の手続きのモデルとして、学納金事案を例に解説いただきました。

鈴木 敦士さん ↓



「初めての生落語、おもしろかったです。だまされる時、思わず欲しくて買ってしまう時つて、あんな感じなのかなと思った。」

「実際には行ったことないけど(SF商法の)雰囲気が伝わってきて良かった」

<感想アンケートより>

「少々難しくって?の部分もあったが、消費者を守る為の法がうまくまわって、被害をうけた時、利用できるようになると嬉しいと思った。消費者はやはり多くの情報をうることが大切だと思った。」<感想アンケートより>

●NPO法人消費者ネットおかやま第4回通常総会【6月4日(土) ～きらめきプラザ】



第4回 NPO法人
消費者ネットおかやま総会

河田理事長の開会挨拶

総会では、消費者被害の情報収集を図り、消費者啓発のためのセミナー開催や財政基盤の強化などが話し合われ、新たに設けられた個人賛助会員(1口千円)制度を生かして、会員加入を促進することなどが確認されました。



総会会場の様子

地方消費者グループ・フォーラムが中国・四国で初の開催【1月25日(火) オルガホール】

テーマ ～つながりあって、共に助け合う地域社会を！

中国・四国9県の消費者団体30団体86名、消費者庁の福嶋長官、各県行政担当者も参加して、各地域の消費者団体やグループの活動交流の場となりました。



<消費者団体からの活動報告>

- | | |
|-----------------------|--|
| ①NPO法人えひめ消費者ネット | 「消費者力をアップして暮らしを守ろう皆の力で」 |
| ②山口県消費者団体連絡協議会 | 「山口県自治体の消費者相談窓口訪問調査」 |
| ③広島県消費者団体連絡協議会 | 「消費者被害防止ネットワーク」
(見守りネットワーク)の設立と今後に向けて |
| ④香川県消費者団体連絡協議会 | 「生かそう、あなたの消費者力」 |
| ⑤山口県地域消費者団体連絡協議会 | 「私たちの活動から“食”を通じて見えてきたもの」 |
| ○岡山県からは、「県消協総社支部の皆さん」 | による寸劇が披露されました。 |

<開催主旨>

消費者の安全・安心確保に向けて、地域の消費者や関係団体が消費者を取り巻く課題をみつけ、行政と協働して(地方)消費者行政の充実を働きかけていくこと等が不可欠だと考え、消費者庁と全国消費者団体連絡会の共催事業として、地域の消費者団体やグループが情報交換・意見交換を行うことを目的に開催されたものです。

“HACCPを知ろう工場見学会”が開催されました【1月18日(火) 見学者:天野実業(株)岡山工場】

見学会は、(財)食品産業センターと全国消団連の呼びかけで、岡山県消団連と三者が主催して行われました。



県消団連から15名のメンバーが参加、HACCPシステムを取り入れた商品の製造工程や商品管理の実際を見聞し、あらためてHACCPシステムの意義を食の安全・安心の視点で考える貴重な機会となりました。

* 岡山県消団連は、県生協連など13団体で構成されています。

おかやまコープ

地産地消・食料自給率向上の取り組みが評価されました。

おかやまコープは、地産地消の推進や食料自給率向上の取り組みが認められ、2011年度の「岡山県食料自給率向上推進大賞」を受賞しました。

おかやまコープが受賞したのは「製造・流通・システム部門」。今まで取り組んできた食料自給率向上・地産地消の推進や循環型農業を応援する活動、産地交流などが評価されたものです。



「食料自給率向上推進大賞」表彰式

また、全国では、食料自給率向上に寄与する団体に贈られる「フード・アクション・ニッポンアワード2011（共催：農林水産省）」優秀賞にも選ばれました。



「フード・アクション・ニッポンアワード2011」表彰式

岡山大学生協

「受験生相談・道案内」

岡山大学生協では毎年、生協学生委員会が中心に「受験生の不安」を少しでも解消できるように、受験前日と当日に学内の「受験生相談」又、「ホテル相談」「岡山駅での道案内」「メール相談」など様々な場面で受験生サポートに取り組んでいます。受験生を温かく迎えたいとの想いを持つ、現役岡大生ならではの活動となっています。



のクイズを行ったりして、参加者に環境を考えもらう機会となりました。当日集まった参加者は、スタッフを含め約130名でした。

<マッチングプログラムコース受験日> <推薦I・AOI受験日>

10月23日に、学内環境の美化という点から、福利施設の周りの美化活動を行いました。

グループに分かれて構内のゴミ拾い、福利施設前の花壇への花植え、ログテーブルのアフターケアなどをを行い、皆さんに気持ちよく利用していただけるようにしました。

また参加者向にゴミ分別



県労済生協

「子どもたちに伝えたい 防災のこと」プロジェクトをスタート



防災・減災の意識が地域に根付き、子どもたちにずっと紡がれていく。当生協は、そんな願いを形にするため、「子どもたちに伝えたい 防災のこと」プロジェクトをスタートさせ、その第一歩となるセミナーを昨年12月に開催しました。

プロジェクトを通じ、災害の少ない岡山で何ができるか、皆さんと一緒に模索してまいります。



トピックス

三井造船生協

第5回 生協ふれあいまつり

11月5日（土）10時～15時、玉野レクレセンターミーティングホールと本部店店頭にて、「第5回生協ふれあいまつり」が開催されました。

ステージでのオープニングは玉保育園児による鼓笛隊演奏からスタートしました。

あいにくの雨模様でしたが、訪れたお客様は、家庭会の活動内容、三井生協の事業紹介のパネル、ステージの演目を鑑賞し、スタンプラリーや、15時からの大抽選会などふれあいまつりを楽しんでいました。



倉敷医療生協

ボランティアで図書の入れ替え

水島協同病院入院患者用図書の入れ替えを図書ボランティアで行ないました。倉敷市中央図書館から年2回、約1000冊の貸出図書が届きます。

図書ボランティアでは、毎週貸し出しを行なっています。



巨大鉄塔が林立する通信施設（象の檻）付近

車から荷降ろし

書庫へ収納

平和研修で美保基地を視察

組合員の平和研修で航空自衛隊美保基地（鳥取）を視察。イラク派遣された空色のC130輸送機や迷彩色のC1輸送機が多数みられました。

米軍も使用するこの基地には、今後C2新型輸送機の配備が決まっています。



岡山医療生協

はじめて知りました

岡山医療生協では毎年12月に「平和のつどい」としてさまざまな取り組みを行っています。



今年は紛争地のこども兵の社会復帰援助活動をしているN G O 「テラ・ルネットサンス」の理事長小川真吾さんの講演会を行いました。

参加した130人のみなさんは「紛争の背景を初めて知った。」「日本の責任についても考えさせられた。」などの感想が寄せられています。

恒例の「すいとん」会食も好評でした。



津山医療生協

健康集会が行われました

12月3日（土）に佐良山公民館で健康集会が行われました。

今回の健康集会では「笑いは健康のもと」と称してアマチュア落語家の安産亭徳丸さんの落語でした。

集会に参加した組合員は「久しぶりに大笑いをした。笑うって事は体も心も健康になる。気持ちが晴れた感じがする。」と言っておられました。



岡山県生活協同組合連合会紹介



概況

1959年9月に創立総会を開催して設立された岡山県生協連は、当初17生協の参加でスタートしました。現在、11の会員生協に、延べ73万余世帯の組合員が加入する県内最大の消費者組織となっています。購買生協は地域、職域の7生協、医療生協は3生協、

それに労済生協とで構成されています。生協は、県民の生活の安定と生活文化の向上に努めており、組合員のくらしと地域社会にとってなくてはならない存在となっています。

代表者名 会長理事 安場 靖

会員数 11生協

会員総組合員数 735,773人 (2011.3.31)

会員総出資金 1,632,390 千円 (2011.3.31)

会員総事業高 7,304,462 千円 (2011.3.31)

設立登記年月日 1960 年 3 月 2 日

役員数(常勤理事) 1人
(非常勤理事) 12人

(非常勤監事)

役員構成

会長理事	安場 靖	(員外常勤)
副会長理事	三橋幸夫	(生活協同組合おかやまコープ 理事長)
副会長理事	武部吉治	(三井造船生活協同組合 理事長)
副会長理事	木村高清	(岡山医療生活協同組合 専務理事)
理事	和泉伸子	(倉敷医療生活協同組合 理事)
理事	大山健二	(岡山大学生活協同組合 専務理事)
理事	岡本多賀子	(三井造船生活協同組合 理事)
理事	加藤孝昭	(岡山県学校生活協同組合 専務理事)
理事	佐々木正昭	(津山医療生活協同組合 専務理事)
理事	田中敦子	(生活協同組合おかやまコープ 理事)
理事	牧野義明	(岡山県労働者共済生活協同組合 専務理事)
理事	道廣義則	(倉敷医療生活協同組合 常務理事)
理事	三堀明人	(グリーンコープ生活協同組合おかやま 専務理事)
監事	河内俊幸	(セイレイ工業岡山地区生活協同組合 理事)
監事	河本志津恵	(岡山医療生活協同組合 常任理事)
監事	近藤清志	(生活協同組合おかやまコープ 常務理事)
顧問	吉永紀明	(生活協同組合おかやまコープ 常任顧問)

会員紹介 (設立期順)

岡山県学校生活協同組合

代表者名 理事長

梶原 洋一

組合員数 17,445人

出資金 137,867千円

供給高 814,270千円

活動エリア 岡山県下、保・幼・小・中・高校・大学職域（県下全域）



設立登記年月日

1949年8月22日

役員数 (常勤) 2人 (非常勤) 12人 (監事) 3人

職員数 (正規) 6人 (内1人出向) (パート) 1人

概略

岡山県学校生活協同組合は、県下公私立の保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校等・大学、教育庁関係職場に勤務される方とその職場を退職された教職員を対象とした職域生協で、組合員より拠出された出資金により運営される事業体です。

学校生協は、1949年に発足以来、組合員の皆さまとともに幾多の困難を乗り越えながら、今日まで発展してきました。今、私たちを取り巻く状況は、行先不透明で不安をかかえたまま推移しています。こういう時だからこそ「平和やくらしを守る生協運動」の果たす役割がますます大切になってきています。今後とも、学校生協事業を魅力あるものに変革しながら、生協本来の活動に邁進し、組合員の福利厚生を担う事業体として更に活動を続けてまいります。

三井造船生活協同組合

代表者名 理事長

武部 吉治

組合員数 25,272人

出資金 536,287千円

供給高 4,738,212千円

活動エリア 玉野市、岡山市、倉敷市

設立登記年月日 1950年11月

職員数 (正規) 112人
(定時) 87人

概略

1950年11月に職域生協として設立、今年で61年目を迎えます。創立以来『人とひとつのつながりを大切にし、健康で心豊かなくらしの実現を目指します』の理念のもと、現在では職域ばかりではなく、地域組合員のくらしを支える共同相互組織として、店舗（玉野市内に5店舗）及び共同購入での供給事業や、葬祭事業、福祉介護事業、旅行業、共済事業など幅広く展開しています。

また、組合員活動では1956年に結成した家庭会（地域組合員組織）を中心として環境問題や福祉活動その他安全な商品の提供にも積極的に取り組んでいます。中でも家庭会チャリティーバザーは第1回目の1979年から連続33年間、毎年その収益金を玉野市の社会福祉事業へ寄贈（累計で1,634万円）など、まさに地域社会にしっかりと根ざした活動となっています。

これら、事業及び組合員活動の歴史を礎に、組合員による・組合員のための生協、安心・安全をキーワードとした生協、また、人と環境にやさしい地域社会づくりに貢献できる生協をめざします。

くらしの中に、そして地域の中に生協がある。

～こういう生協をめざして～

本花瀧生活協同組合

代表者名 理事長

名合 正壽

組合員数 94人

出資金 4,700千円

供給高 960千円

活動エリア 井原市芳井町
花瀧地区



設立登記年月日

1950年6月18日

(生協法上の登記)

役員数 (非常勤) 7人

(監事) 3人

職員数 (正規) 0人

概略

本組合は、元産業組合法と定款第一章第1条の目的に依り設立し爾後経営維持し大正12年2月本花瀧利用組合に組織変更、昭和25年、本花瀧生活協同組合に改組し現在に至っております。本組合は、協同相互の精神に基づき生活の文化的、経済的、改善を計ることを目的として活動しています。

岡山医療生活協同組合

代表者名 理事長

浪尾 淑子

組合員数 60,020人

(2011年11月末現在)

出資金 1,821,225千円

(2011年11月末現在)

供給高 7,282,384千円

(2010年度)



活動エリア 岡山県下一部

設立登記年月日 1952年10月21日

役員数 (常勤) 9人 (非常勤) 25人 (監事) 5人

職員数 (正規) 650人 (定時) 320人

概略

1952年に設立された当生協は、現在組合員は60,020人、出資金が18億2千万円となりました。そして、今年創立60周年を迎えました。

事業所は、2つの病院、5つの診療所、12の介護事業所で構成しています。

これらのネットワークを活かし地域のみなさまの医療・介護の要望にお応えしています。1枚の診察券ですべての事業所で診察できることもその一つです。さらに、岡山中央福祉会をはじめ地域医療機関と連携して医療・介護・福祉の充実につとめています。

岡山医療生協の“4つのこころ”（①「差額ベッド料」はいただきません ②「謝礼」や「付け届け」の心配はいりません ③人権を守る医療・介護をめざします ④保健・医療・福祉のネットワークで安心の対応をします。）はこれまでの活動をより豊かなものにしてきました。

医療・介護の一層の充実に努め、県南東備での安全・安心のまちづくりにとりくんでまいります。

会員紹介 (設立期順)

倉敷医療生活協同組合

代表者名 理事長
早川 高子
組合員数 62,520人
出資金 1,619,914千円
供給高 9,978,669千円
活動エリア 岡山県全域
設立登記年月日

1955年2月28日

役員数 (常勤) 9人
(非常勤) 18人 (監事) 5人
職員数 (常勤) 803人 (非常勤) 411人
概略

倉敷医療生活協同組合は、センター病院の水島協同病院を中心に、全体で3病院、5医科診療所、7歯科診療所、3訪問看護ステーション、3ヘルパーステーションに加え、老健施設、倉敷市の高齢者支援センター、助産院、認知症デイサービスなど多彩な機能を持つた32の事業所を有して、医療・介護・福祉と、健康づくりのネットワークを展開しています。

2011年度は、「ひとびとの“きずな”」を強め、安心して住み続けられるまちをつくろう」をテーマに事業と運動をすすめてきました。「高齢者にやさしいまちづくり」にむけた「高齢者にやさしいまち」チェックにとりくんでいます。支部も2つ増え、地域の顔のみえる組合員運動へと発展しつつあります。人工透析室を再拡張した水島協同病院、新築移転した真備歯科診療所は、順調に患者結集がすすんでいます。

2年数か月前の政権交代後も、私たちをめぐる状況は好転しないばかりか、返って暮らしは大変きびしくなっています。平和と健康な暮らしを守る医療生協の一層の飛躍が求められています。組合員、地域住民の切実な思いに寄り添い、「人が人として大切にされる社会」をめざし、全力をあげてまいります。



生活協同組合おかやまコープ

代表者名 理事長
三橋 幸夫
組合員数 321,647世帯
(2011年11月末日現在)
出資金 107.4億円
(2011年11月末日現在)
総事業高 392億円
(2010年4月1日~2011年3月31日)

活動エリア 岡山県一円 (定款エリア)
設立登記年月日

1956年6月13日

役員数 (常勤理事) 5人 (非常勤) 13人
(常勤監事) 1人 (監事) 4人
職員数 (正規) 447人 (定時) 1,801人 (2011年11月末日現在)
概略

おかやまコープは、岡山県内の4割に当たる31万世帯が加入する県下最大の消費者組織です。宅配と店舗での食品や日用品を供給する購買事業を中心に、COOP共済たすけあいなどの共済事業、訪問介護やデイサービス等の福祉事業を行っています。

品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001を取得しています。また、商品トレーディングの取り組みや「食の安全総合政策」の策定など、安全・安心な商品の提供や直営事業、地産地消を推進しています。

また、商品学習や产地交流などの商品活動やたべる・たいせつ活動、省エネ活動やリサイクル運動、マイバッグ運動などの環境の取り組み、核兵器と戦争のない世界をめざしての平和活動、ユニセフやAMDAへの支援をする国際協力支援活動、「子育てひろば」などの子育て応援活動や組合員どうしで支えあう「コープくらしの助け合いの会」の活動など多彩な組合員活動にも取り組んでいます。

関連会社のコープP&Sでは、旅行・飲食・プレイガイドの他、葬祭や保険などの斡旋事業を行っています。



岡山県労働者共済生活協同組合

代表者名 理事長

石田 一

組合員数 20万5581人
出資金 13億5931万9200円
契約件数 7万9752件 (44万5839件)
契約口数 34万7432口 (4864万4262口)
給付件数 3055件 (2万7361件)
給付金総額 2269万9500円 (42億1084万1601件)

活動エリア 岡山県一円

設立登記年月日 1961年4月1日

役員数 (常勤) 2人 (非常勤) 26人

職員数 1人 (33人)

* ()内は連合会実績

概略

岡山県労働者共済生活協同組合(全労済岡山県本部)は、営利を目的としない保障の生協として、岡山県と厚生労働省の認可を得て事業運営を行っています。

当生協は、2011年の大震災で被災された方への共済金支払を、最優先業務として全力で取り組んでまいりました。組合員の力が結集し、「たすけあいの輪」として大きな力が發揮されていることにつきまして、組合員と諸団体の皆さまへ心よりお礼申しあげます。

私どもは、「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」を理念とし、組合員の皆さまの「安心とゆとりある暮らし」をめざした活動を行っています。

これからも、「組合員の全労済」「正直な全労済」「努力の全労済」を信条とし、組合員のくらしを何よりも大切とし、組合員や地域社会からの信頼に応え、社会の発展のために行動し、たすけあいの心を大切にすることにより、全労済に関わるすべての人の満足に向け努力し続けます。



セイレイ工業岡山地区生活協同組合

代表者名 代表理事

木村 正道

組合員数 401人
出資金 401千円
供給高 19,698千円
活動エリア 職域(工場内)
設立登記年月日

1965年1月25日

役員数 (常勤) 0人 (非常勤) 10人

職員数 (正規) 1人 (定時) 0人

概略

当生協は新岡山港の近くの「ヤン坊マー坊」でおなじみのヤンマー農業機械の総合機会メーカー、セイレイ工業の敷地内で活動しています。

組合員数約400名と限られた範囲での活動であり、これから組合員の減少が予測される中、安定経営および、組合員の要望にそった活動が出来るよう一層の努力が問われています。

一年間を通じての地域の公園や遊歩道のクリーン作戦も回を重ね、これからも地域とのつながりを大切にしていきたいと思っております。



会員紹介 (設立期順)

津山医療生活協同組合

代表者名	理事長 中西 孝
組合員数	7,018人
出資金	86,010千円
供給高	341,722千円
活動エリア	定款区域 (主には津市と 津市周辺町村)

設立登記年月日

1980年8月12日

役員数	(常勤) 2人 (非常勤) 15人 (監事) 4人
職員数	(正規) 19人 (定時) 21人

概略

津山医療生活協同組合は、1980年8月設立以来、患者様・利用者様の権利を尊重し、親切でやさしい医療・介護をこころがけ、地域医療と働く人々の命と健康を守るために全力を尽くしています。又、津山医師会・自治体とも協力して地域の健康づくりをすすめています。

高齢化社会が進み、医療や介護、暮らしをめぐる生活の環境が変わる中で、診療所・訪問看護ステーション・居宅介護支援（ケアプラン）事業所・ヘルパーステーション・デイサービスなど保健・医療・福祉（介護）のネットワークをひろげ、365日安心・安全の医療・介護サービスの充実と組合員との協同による健康づくり・まちづくりを進めています。

2012年は待望の新築移転を実現する年です。



岡山大学生活協同組合

代表者名	理事長 田口 勇仁
組合員数	15,167人
出資金	231,290千円
供給高	2,078,243千円

設立登記年月日

1995年2月20日

役員数	(常勤) 2人 (非常勤) 27人 (監事) 4人
職員数	(正規) 19人 (定時) 160人

概略

岡山大学生活協同組合は岡山大学の学生・教職員の手によって1994年12月に設立されました。

大学生協は、大学の福利厚生事業の担い手として、学生・教職員組合員に良い品をより安く、より便利に提供するとともに、教育・研究の場としての大学にふさわしい様々な活動を行っています。

岡山大学では、津島キャンパスのマスカットユニオン・ピーチユニオン・ピオーネユニオン及び鹿田キャンパス医学部記念会館という大学の福利施設の中で、構成員のニーズにもとづいて、購買・書籍事業、旅行事業、食堂事業、共済事業、住生活支援事業など幅広い事業に取り組んでいます。



グリーンコープ生活協同組合おかやま

代表者名	理事長 黒田 明穂
組合員数	5,904人
出資金	135,585千円
供給高	788,995千円 (2011年 3月20日現在)
活動エリア	岡山市・倉敷市・ 総社市及びその周辺地域（共同購入と個配事業）



設立登記年月日

2003年8月13日

役員数	(常勤) 1人 (非常勤) 12人 (監事) 3人
職員数	(職員) 18人 (定時職員) 14人

概略

グリーンコープ生協おかやまは、安心・安全な食べものを求め、環境問題や地域福祉、平和の取り組みなどに関心ある消費者が集まり、2003年8月に設立しました。

無・減農薬で栽培された青果・農産物や遺伝子組み換えされていない飼料で育てた畜産物、なるべく添加物を使わずにつくった加工品など「いのちを育む食べもの」を、組合員に届けています。また、生産者やお取引先メーカーとの「顔の見える関係」を大切にすることで、組合員世帯の食の安全を守るとともに、国内の農畜産業を守っていくとくみとして位置づけすすめています。

今の時代、経済と社会不安が大きくなっていく中で、一番大切なことは「信頼」です。組合員と地域の人々との「助け合っていく。支えあっていく。」をつくっていくことができる生協を目指して参ります。

県生協連会員生協名簿

会員生協名	住所	電話・FAX
岡山県学校生活協同組合	〒703-8258 岡山市中区西川原255	TEL 086-272-4033 FAX 086-272-4034
本花滝生活協同組合	〒714-2104 井原市芳井町花滝2834-5	TEL 0866-73-0202
三井造船生活協同組合	〒706-8501 玉野市玉二丁目5-5	TEL 0863-31-5566 FAX 0863-31-7459
岡山医療生活協同組合	〒703-8288 岡山市中区赤坂町2-20	TEL 086-271-0943 FAX 086-271-7854
倉敷医療生活協同組合	〒712-8025 倉敷市水島南春日町13-1	TEL 086-448-6210 FAX 086-448-4150
生活協同組合おかやまコープ	〒700-0026 岡山市北区奉還町1-7-7	TEL 086-256-2511 FAX 086-256-2585
岡山県労働者共済生活協同組合	〒700-0024 岡山市北区駄元町6-26	TEL 086-254-2155 FAX 086-254-8116
セイレイ工業岡山地区生活協同組合	〒702-8004 岡山市中区江並428	TEL 086-276-8115 FAX 086-276-9879
津山医療生活協同組合	〒708-0872 津山市平福547-1	TEL 0868-28-3858 FAX 0868-28-3803
岡山大学生活協同組合	〒700-8530 岡山市北区津島中2-1-1	TEL 086-251-7207 FAX 086-256-0445
グリーンコープ生活協同組合おかやま	〒700-0973 岡山市北区下中野311-113	TEL 086-805-2566 FAX 086-805-2552

世界の協同組合は 共通の「定義・価値・原則」をもっています。

定義

協同組合は、共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共通の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人々の自治的な組織である。

価値

協同組合は、自助、自己責任、民主主義、平等、公正、そして連帯の価値を基礎とする。それぞれの創設者の伝統を受け継ぎ、協同組合の組合員は、正直、公開、社会的責任、そして他人への配慮という倫理的価値を信条とする。

原則

協同組合原則は、協同組合がその価値を実践に移すための指針である。

- (第1原則) 自発的で開かれた組合員制
- (第2原則) 組合員による民主的管理
- (第3原則) 組合員の経済的参加
- (第4原則) 自治と自立
- (第5原則) 教育、訓練および広報
- (第6原則) 協同組合間協同
- (第7原則) コミュニティへの関与

世界の生協

世界ではじめて生協が誕生したのは、いまから約170年前の1844年、イギリスのロッチデールというところです。

当時のイギリスは、産業革命のまっただ中で、労働者は、失業、低賃金、高い物価に悩まされていました。悪徳商人は、パンにワラくずを混ぜて高く売るなど働く人々を苦しめていました。

ロッチデールの28人の労働者たちは、1年間かかって資金を積立て、安心して利用できる自分たちの店をつくったのです。

この経験は、次々とヨーロッパに波及し、全世界へと運動の輪はひろがりました。

今、国際協同組合同盟（ICA）に加盟する協同組合は、世界93ヶ国10億人をこえています。



ロッチデールの先駆者たちの記念写真

日本の生協

日本の生協は、1879年（明治12年）にはじめて設立され、1900年に制定された産業組合法のもとに購買組合として広がっていました。特に、第一次大戦以後の働く人々の生活困難と労働運動や社会運動の高まりの中で、市民購買組合と労働者消費組合がつくられました。そして高度成長時代のひずみによる暮らしの要求から、主婦を中心とする生協が数多くうまれ、全国に広がっていました。

「よりよい生活と平和のために」をスローガンに、現在生協は全国で、また多くの分野で活動を展開し、組合員は2000万人を超えるました。また生協どうしの県を越えた連帯、連合も進んでいます。

岡山県生活協同組合連合会 岡山市北区奉還町1-7-7 オルガ5階

Tel 086-230-1315 Fax 086-230-1317 ホームページ <http://okayama.kenren-coop.jp/>